



もんま あきら
門間 明 隊員
・札幌市出身、横浜市より移住

野菜農家として留萌で就農

農業技術の習得と農業を通じて地域力の活性化などを目的に平成25年6月から活動を開始しました。活動3年目を迎え、今は、野菜農家として就農するための準備を進めています。

これまでを振り返ると、多くの方が、農業素人の私に農業技術などさまざまなことを丁寧に教えていただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

留萌は、食べ物がおいしくて自然も豊かで、子どもを育てるのにとても良い環境であると感じています。26年3月から家族と一緒に留萌で生活するようになりました。妻と息子にも友達が少しずつ増えてきたようです。

任期満了後は、家族3人で留萌に定住し、藤山で野菜農家として頑張っていきたいと考えています。

新たな栽培技術に挑戦したい

農業と福祉が連携した6次産業化事業の支援などを目的に平成26年8月から活動を開始しました。主な活動としては、幌糠農産物処理加工施設で乾燥野菜の加工製造などにかかわっています。

27年10月からは、幌糠実験ハウスで水耕栽培試験なども開始しました。今後の活動としては、農産物処理加工施設と実

験ハウスを中心に農業・農村の活性化に取り組んでいきたいと思っています。

初めての経験も多く、戸惑いもありますが、だれもやっていなかったことに挑戦できることにやりがいを感じています。

任期満了後は、今の活動を継続していきたい気持ちがあり、農業を支援していく活動に携わっていききたいと考えています。



さとう たけし
佐藤 武志 隊員
・北見市出身、札幌市より移住

農業技術の習得へ頑張りたい

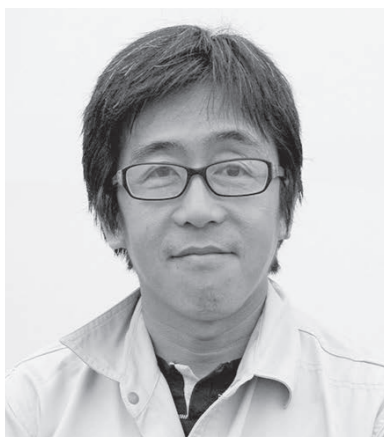
農業技術の習得と農村集落の活性化に向けた都市農村交流活動などを目的に平成27年1月から活動を開始しました。

留萌に移住してきたころは、留萌の雪の多さに驚きましたが、半年が経ち、少しずつ留萌の生活にも慣れてきました。地域の皆さんは大らかで、家族のように受け入れてくださいます。

主な活動としては、大和田の

花き農家で農作業に従事しました。現在は、幌糠実験ハウスで水耕栽培試験に携わり、農業技術の習得に努めています。

花に携わる仕事がしたいと考え、家族で留萌に移住してきましたので、花き農家として独立できるようさまざまなことに挑戦し、定住に向けてしっかりと農業技術を習得していきたいと考えています。



きくち やすゆき
菊地 泰之 隊員
・苫小牧市出身、札幌市より移住



ただいま留萌市で奮闘中！ 私たちが地域おこし協力隊です

都市部から移住し、活力ある地域づくりや魅力あふれる留萌の未来のために活動しています。



地域社会の新たな担い手 地域おこし協力隊

総務省が推進する地域おこし協力隊は、都市部の人材を地域社会の新たな担い手として受け入れ、地域力の充実・強化を図るもので、人口減少や少子高齢化が進む地方の活性化などの原動力として期待されています。

活力ある地域づくりへ 3人の隊員が活動中

市では、平成22年度から地域おこし協力隊を募集し、これまでに10人を隊員として委嘱しました。隊員は委嘱期間中（おおむね1年から最長3年）、市から生活や定住への支援を受け、さまざまな地域活動に挑戦しています。これまでに2人の隊員が任期後に地元企業に就職し、現在も地域の一員として活躍しています。

現在は25年度、26年度に委嘱した合わせて3人の隊員が活動しています。各隊員は、それぞれの目標や夢を抱き、自身の才能や能力、特技などを生かして新規就農や6次産業化に向けた商品開発、農業技術の習得



▲ピーマンを収穫する門間隊員

などに取り組み、定住・定着の道を模索しながら、活力ある地域づくりの一助として努力しています。少子高齢化に伴う人口減少や市外への若い世代の流出などが続く留萌市で、市外から移り住んできた隊員たちが地域社会の新たな担い手として活躍していくことに加え、隊員たちの活動や熱意などが地域により刺激となり、「行政」「地域」「地域おこし協力隊」のそれぞれが連携することで、これまで以上に地域が活性化していくことが期待されています。



▲幌糠実験ハウスのボイラーの使用方法を学ぶ菊地隊員



▲乾燥野菜の出荷作業に励む佐藤隊員